

令和8年度 研究概要

| | | | |
|-------------------|--|---------------------|-------------------------|
| 所属名 カリキュラムセンター | | 研究会議名 探究的な学び研究会議 | |
| 年次 | 1—1 | 担当責任者 (尾形裕子) | 担当指導主事 (山城祥二・佐藤貴博・青木洋俊) |
| 研究主題 | 探究的な学習の過程で問いや課題を更新し続ける児童生徒の育成 ～教師による単元構想シートと児童生徒とともに作る単元ロードマップの活用を通して～ | | |
| 育成を目指す 資質・能力 | 問いや課題を更新し続け学習に向かう資質・能力 | | |
| 研究内容 | <p>令和5年6月の「第4期教育振興基本計画」において、総合的な基本方針の一つとして「持続可能な社会の創り手の育成」が示され、「実社会における課題解決学習（中略）など、様々な活動を通じて主体的に社会の形成に参画する態度を育成していく必要がある」と明記されている。また、川崎市では、令和8年3月の「第3次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画」においてKey Project 1として「社会参画に向けた資質・能力を育成する探究的な学びの充実」が示され、「自分たちで考え、解決していくことを大切にする『探究的な学び』を発展的に繰り返していく」ことによって「自分で問題を発見し、課題の解決に主体的に取り組んだり、他者と共に考え、新たな価値を創造したりする力」を身に付けることを目指している。これは「中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」の「探究的な学習における生徒の学習の姿」の図にある「自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される」姿と関連するものと捉える。つまり、探究的な学習の過程を繰り返すことがKey Project 1で目指す姿、資質・能力の育成につながるといえる。</p> <p>一方で、川崎市の実態として、令和8年4月の全川崎市立学校の担当者を対象とした第1回探究担当者研修会後の振り返りを分類整理すると、最も高い割合を示したのは「1年間を見通した計画を立てるのは、とても難しい」「サイクルの連続性・発展性についてたくさん考えないといけないことがある」などの総合的な学習の時間における単元づくりについて課題と感じている記述であり、全体の4割程度であった。こうした課題の解決にあたっては、探究的な学習の過程を繰り返す単元づくりに焦点を当てた研究が必要であると考えた。</p> <p>以上のことから、本研究会議では総合的な学習の時間の「自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される」単元づくりに焦点を当て、研究主題を「探究的な学習の過程で問いや課題を更新し続ける児童生徒の育成」とした。そのためには教師が目指す児童生徒の姿を明確にした単元を構想していくことが必要である。そこで、次の2つの手立てを設定して研究を進めることとした。1点目は、教師が児童生徒のどのような資質・能力を育てたいかを明確にし、児童生徒の具体的な活動の姿を見通した単元構想シートを作成することである。シートの活用により、教師自身が目標を達成するためにどのような児童生徒の姿が見られたらよいかを考えることができ、探究的な学習がどのように発展するかを見通しながら指導に生かすことができると考える。2点目は、児童生徒が課題解決に向けて活動を見通せるよう単元ロードマップを教師が児童生徒とともに作成することである。これは探究的な学習の過程の中で更新されていくものであり、児童生徒自身の学びの現在地を確認する手立てとして有効であると考え。これらの手立てにより問いや課題を更新し続ける児童生徒の育成を目指していく。</p> <p>検証にあたっては、手立てによる児童生徒の変容を、授業中における発言や記述、行動の観察、児童生徒を対象とした意識調査、ロードマップの加筆・修正状況により、見取り、分析していく。</p> | | |